

遊びは仕事、仕事は遊び
遊びは仕事、仕事は遊び
仕事は遊び、遊びは仕事
仕事は遊び、遊びは仕事
遊びは遊び、遊びは遊び
遊びは遊び、遊びは遊び

大浦総合研究所

大浦勇三 著

ビジネス梁塵秘抄（十）

目次

はじめに

第一部

〔遊〕

遊びをせんとや生れけん

第二部

〔献〕

仕事をせんとや生れけん

第三部

〔学〕

学びをせんとや生れけん

はじめに

平安時代末期、「梁塵秘抄（りょうじんひしょう）」という歌謡集が編まれました。平安時代末期は、日本の歴史の中でも先が見えない激動の時代でした。編者は後白河法皇で一八〇年前後のものといわれます。書名の「梁塵」は、その歌で梁（はり）の塵（ちり）も動いたという故事からとられました。

多くの歌が七五調四句や八五調四句、さらには五七五七七の調子など、さまざまなバリエーションからなります。

通常、「梁塵秘抄」といえば、

**遊びをせんとや生れけむ、戯れせんとや生れけん、
遊ぶ子供の声きけば、我が身さえこそ動がるれ。**（岩波文庫版）

が有名です。

現在、日本をとり巻く環境は、平安時代末期に負けず劣らずの大変革期にあり、その規模はグローバルな広がりを持っています。グローバル規模の動きになればなるほど、あらためて日本の文化風土、日本人の特性が一段と問われることとなります。

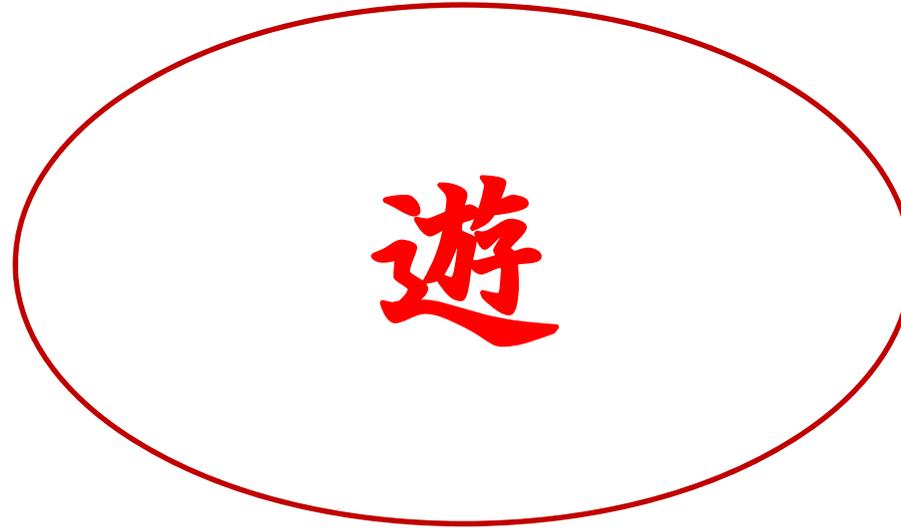
この二〇年、日本はなかなか前に進めず、ある意味で後退を余儀なくされましたが、「後ろ向きで前に進む」ことには限界があります。前へ進もうとする以上、きちんと正面を向く必要があります。平安時代の日本人は、乱世の中で的人生を「遊び」「戯れ」と肚をくくり、難題や障害と真正面から向き合い、それを乗り越え生き抜いてきました。

二二世紀の我々も、この文化風土と特性をもう一度再認識し、覚悟を決めて思いを深め、生活と仕事に希望と喜びを見出していききたいものです。

本書は、仕事を通じて少しずつ抽斗（ひきだし）にため込んできたものを、真つ平御免の何でもありの形式で纏めたものです。しかし、文学的素養などの力不足はいかんともし難く、お手本の「梁塵秘抄」とは比べることが憚れるレベルの内容になってしまいました。ただ、「遊（遊び）」「献（仕事）」「学（学び）」に対する思いの深さだけは忘れず、無我夢中でまとめたことだけはお汲みとりいただき、なにとぞご寛恕いただければ幸いです。

東京・芝にて

大浦 勇三



遊びをせんとや生れけん

*三〇ページ、九〇文より
一ページ、三文を抜粋

○どこへ行くかわからない どこにも辿りつけない
失敗の達人 問題を抱えこまず最善と最悪を睨む
人に勝つ道は知らなくも 己に勝つ道だけは知る
マネは御法度 必ず時代は飢えている、と阿久悠

○ベキ乗則の時代 進む方向を間違えぬための蓄積の勝負
破壊的な危機をしのぐには 理詰めの効率追求では無理
ぼんやりとした幸福感 男の剛腕より女の柔軟性の時代
朦朧体 神はサイコロを振らない、とアインシュタイン

○専門や科目には限定されない総合力・教養
ただ教養は教養として学ぶことはできない
そもそも全ての創造はマネから始まるもの
バツハもたくさん色んなマネをしたらしい

献

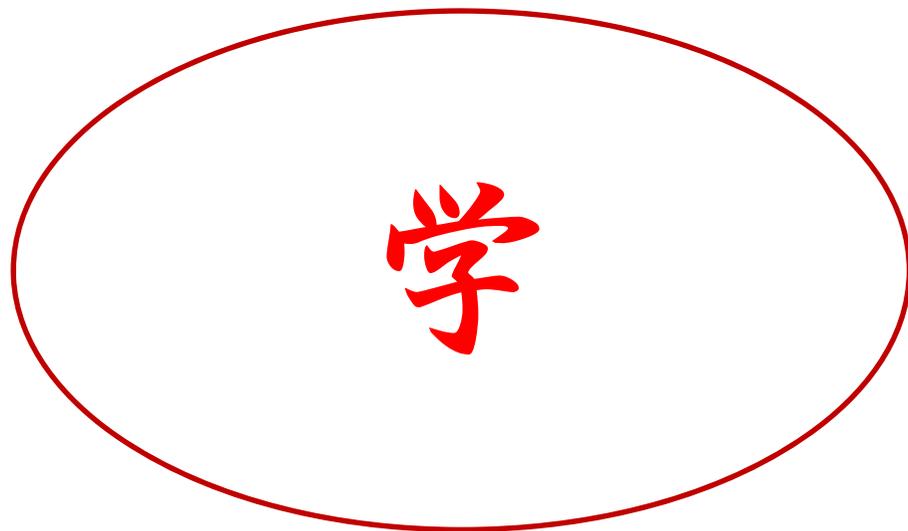
仕事をせんとや生れけん

*三〇ページ、九〇文より
一ページ、三文を抜粹

○人に固有のローカルルールや基準がはびこることも多い
歴史は逆説に満ちて人々の純粹な意図や目的をあざ笑う
過酷な結果が突き付けられるのを甘受 重荷が人を造る
エベレストの頂上の環境に適応せよ、とジム・コリンズ

○技術立国日本 開発力と応用力の地力の格差
世間の風に乗ればよいというものでもない
読者の間に五十%くらい伝わったときに描く
八十%浸透あとでは古い、とサトウサンペイ

○一〇〇年・二〇〇年 この世の花が内包する小さな力を結集する営為
人間が見ていても見ていなくとも 咲いては消えていくのが栄枯盛衰
能や歌舞伎の型は武術と共通 能面は剣術の稽古での手の働きの制限
最も力が入る個所を抑制することで潜在力を呼び覚ます、と多田容子



学びをせんとや生れけん

*三〇ページ、九〇文より
一ページ、三文を抜粹

○自然に対する諦念 コツコツ努力し、いざという時はすぐ諦める
人間のやることにどんでん返しは付きもの 頭から決めつけない
順調と思っても 何を基準にするかによって評価は逆になる
協働する作法を叩き込む 人のことを学び続ける、とトリー監督

○難しいことを簡単に考える習慣 己の手で編集するのが一番
挑戦 批判されないようなものは最初から創らないのが得策
老人は目的・制約から解放される 芸術家と同じようなもの
だから老人というのはクリエイティブなはずだ、と横尾忠則

○ダルマに遇つたらダルマを殺す 自分のほかに権威をつくらない
後悔して引きずらないこと 同じ色を一〇〇回以上は塗り重ねる
少ない色の数を重ねて味を出す 見える化より情熱を秘めたへた
うまいピアニストは多い オスカー・ピーターソンは幸せにする

大浦勇三（おおうら ゆうぞう）

oura@office.email.ne.jp

大浦総合研究所 代表

<http://www.iii.jp.or.jp/oura/>

早稲田大学卒業、筑波大学大学院修了。

米国大手コンサルティング会社アーサー・D・リトル 主席コンサルタントを経て現職。主担当領域は、経営改革、経営戦略&情報通信技術（ICT）戦略策定、業務改革／組織改革、研究開発／商品開発マネジメント、ナレッジマネジメント&イノベーションマネジメント、人材マネジメント、コーチング&メンタリング、プロジェクト&プログラムマネジメント、ベンチャービジネス支援等のコンサルティング。

主な著書には、

- ・「イノベーション・ノート」（PHP研究所）
 - ・「IT技術者キャリアアップのためのメンタリング技法」（ソフトリサーチセンター）
 - ・「よいコンサルタントの見分け方、かかり方」（清語舎）
 - ・「ナレッジマネジメントが見る見るわかる」（サンマーク出版）
 - ・「図解 ナレッジ・カンパニー」（東洋経済新報社） ほか
- その他新聞、雑誌、ウェブサイトへの寄稿多数

「ビジネス梁塵秘抄（十）」（抜粋）

著者 大浦勇三

二〇一四年二月 初版 第一刷発行

大浦総合研究所

〒二七〇・〇〇三四 松戸市新松戸七・五四三

◎大浦総合研究所

大浦総合研究所の許可なく複製・改変などを行うことはできません。